

タカタ製エアバッグ問題の経緯

不具合発生状況

- 2004年以降、硝酸アンモニウムを使用したタカタ製エアバッグのガス発生装置（インフレーター）が異常破裂し、金属片が飛散する不具合が発生。

日本国内での走行中の事故： 8件 うち死者数：0名（負傷者数：2名）

全世界での走行中の事故： 約200件 うち死者数：少なくとも18名 { 米国13名 <2009年2名、2013年1名、2014年2名、2015年4名、2016年3名、2017年1名>
マレーシア5名 <2014年1名、2016年4名>

- 2008年以降、米国では累計4, 200万台以上、全世界では累計8, 100万台以上がリコール対象となった。
- 日本国内では、2009年以降自動車メーカー等24社から延べ134件のリコールが実施されており、**累計1, 883万台が対象**。(2017年7月時点)

日本国内におけるリコール

①原因が特定されたリコール

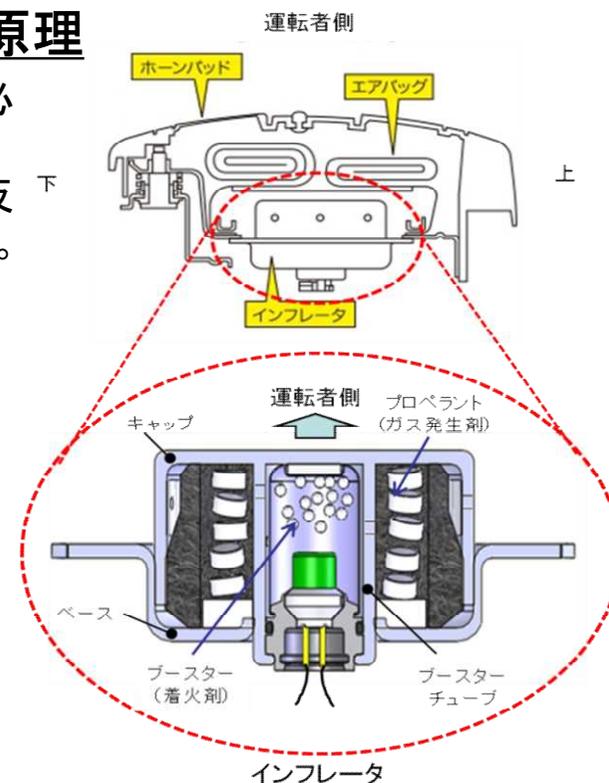
タカタにおけるエアバッグ・インフレータの製造管理が不適切であったために発生した不具合のリコール。

②予防的リコール

原因が特定されていない段階でも、僅かでも事故の可能性のあるものについてのリコール。
主に、2015年5月以降にリコール届出。

エアバッグ・インフレータの作動原理

コンピュータがエアバッグをふくらませる必要があると判定すると、インフレーター(ガス発生装置)に着火され、燃焼による化学反応でガスが発生し、エアバッグがふくらむ。



タカタ製エアバッグ問題への国土交通省の対応

① リコール対象車両の早期改修

【背景】

リコール届出された車両について、早期に改修を実施することが課題。

2017年6月までに届出されたリコール	総台数	改修率(7月末)	未改修
原因が特定されたリコール	254万台	94.4%	14万台
予防的リコール	1,628万台	75.5%	398万台
合計	1,882万台	78.1%	412万台

【対応】

- 自動車メーカーに対し、ユーザーに確実にリコール情報を伝達し、早期の改修促進策の検討・実施を指示。
- タカタ及び自動車メーカーに対し、他のインフレータ製作者とも協力し、交換部品の供給を確保するよう指導。
- 2015年3月以降、運輸支局において、タカタ製エアバッグのリコール未改修車に対し、車検証交付時に警告文を交付。2015年11月以降、ダイレクトメール未達のユーザー対策として、車検証交付時に住所変更を促す取組を実施。
- 2015年4月以降、国土交通省としても、リコール未改修車のユーザーの一部に対し、ダイレクトメールを送付するほか、職員による個別宅への訪問を実施。

② リコール対象車両の拡大

【背景】 タカタ等によるエアバッグインフレータの不具合に係る原因調査において、乾燥剤の入っていないものについては、その中にある火薬が、湿気のある状態で長期間の温度変化にさらされると劣化することが明らかになった。

【対応】 2016年5月、国内の自動車メーカーによるリコールの拡大スケジュール(対象約700万台)をとりまとめ自動車メーカー等に対し、当該スケジュールを可能な限り前倒してリコールするよう指導

③ 硝酸アンモニウムを使用したタカタ製インフレータの取扱い

2015年12月、予防的措置として、硝酸アンモニウムを使用したタカタ製インフレータの使用縮小・停止に向けた方針をとりまとめ、タカタ及び自動車メーカーなどに対し、適切に対応するよう指導。